

令和元年度 串間市立市木小学校「学校関係者評価書」

評価の基準	「4」期待以上	「3」ほぼ期待通り	「2」やや期待を下回る	「1」改善を要する
-------	---------	-----------	-------------	-----------

学校の教育目標	自信に満ち 豊かな心をもって たくましく生きる子どもの育成
---------	-------------------------------

本年度の重点目標	○ 生きる力を育む確かな学力の育成 【 知：共に学び伝え合う喜び 】
----------	------------------------------------

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
生きる力につながる確かな学力の育成	■楽しく、分かりやすい授業づくり ・楽しい授業 ・分かりやすい授業	1	概ね「4」の評価 ○ 心のアンケート等で「学校が楽しい」と回答した児童がほとんどであり、その多くが、楽しく学習に参加している状況である。問題提示や学習指導過程等を児童の実態に応じて工夫しながら、実生活と関連づけて、主体的に学習に取り組めるような工夫を行っていききたい。保護者への調査でも91.4%の方が楽しく授業に参加していると回答されている。	3	4	○ 朝の登校時の様子を見ても児童にとって学校が楽しい場所であるということがよくわかる。 ○ 概ね児童の多くは楽しく授業を受けているようで、授業中の様子を見ても児童の活気のある様子がうかがえ、授業内容も色々と工夫されているのが数多くの場面で見られる。 ○ 「楽しい授業」「わかりやすい授業」を工夫して実践されていると感じる。このような環境の中で児童が主体的に学ぶという意欲をもって学習に取り組んでいる様子がわかる。また、タブレット等を活用しての授業も魅力があり集中できると思う。 ○ 聞く力は学習する上で大切なものなので弱いと感じられる部分の強化を図ってほしい。 ○ 漢字力・計算力の向上については、小テスト等を今後も継続し、意欲付けを図ってほしい。 ○ 家庭学習の習慣化に向けての家庭環境づくりのために継続的な読書の必要性の説明を通して、保護者の意識改革や家庭読書の協力を求めていってほしい。 ○ 読書を楽しむ児童を育てるには保護者も同じように読書を楽しむことが必要であり、今後も継続的に家庭読書を推進するような仕掛けが必要である。また、児童の実態を考慮しながら、読みたい本や多く読まれている本の推奨を行ったり、保護者からアイデアを募ったりすることも必要である。児童にとって感性豊かなこの時期に、心に十分な栄養を送りたいものである。
		2	概ね「3」の評価 ○ 学校では「主体的・対話的で深い学びができる児童の育成」を研究主題として日々の授業改善に取り組んでいる。加えて、全国学習状況調査やみやざき学習状況調査の結果等の分析結果を生かした授業を展開している。その結果として、児童の89%、保護者の94%が肯定的に捉えている。今後は、深い学びにつながる話合い活動の更なる充実を図っていききたい。			
	3	概ね「3」の評価 ○ 児童・保護者ともに高い評価であるが、教師としては聞いている場面とそうでない場面の差があると評価する部分もある。今後は、相手の方を向いて、「体全体で聞く」「自分の考えと比較しながら聞く」といった指導も必要である。				
	4	概ね「3」の評価 ○ 児童86%、保護者91%が肯定的な評価となっている。今後は、文章で分かりやすく表現する力の育成や発表及び話合いの場の工夫、お互いを認め合う雰囲気づくりを通して、個々の実態に応じた表現力の向上を図っていききたい。				
	5	概ね「3」の評価 ○ 保護者の肯定的評価は86%と良好である。児童も日々の努力が漢字力・計算力の向上につながることを実感している。今後は、ICT機器の活用やスキルタイムの計画的・効果的な活用と共に、児童自身が意欲的に取り組めるような手立て（小テストの実施等）を通して、確実に定着へとつなげていききたい。				
	6	概ね「3」の評価 ○ 肯定的評価が、児童82%、保護者68%で、昨年度よりも少し低い評価となっている。読書に関しては、個人差も大きいようである。学校としては、学校司書とも連携し、読書の大切さ等も伝えながら、様々なジャンルの本への興味をもたせることや、保護者と連携した家読への取組を支援していききたい。				
	7	概ね「3」の評価 ○ 家庭によって、生活リズムや学習習慣の定着には差がみられるが、保護者の評価は94%と高い評価である。今後は、串間市の家庭学習の手引きを十分に活用し、質の高い家庭学習をめざしていききたい。また、家庭でのノーメディアデーなどメディアコントロール力育成への協力もお願いしていききたい。				

本年度の重点目標	○ 命を大切にし、豊かな心を育む教育の推進 【 徳：生命を尊重し思いやる喜び 】
----------	--

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
命を大切にしながら豊かな心の育成	■基本的な生活習慣の確立 ・挨拶の習慣 ・学校の生活のきまり ・手伝いや清掃(協力)	8	概ね「3」の評価 ○ 児童や保護者の80%は、よく挨拶をしていると評価しているが、地域での場面や休日などの日常生活の中では、まだまだ十分でない面があると判断できる。今後は、児童自身に挨拶することの意義やコミュニケーションの大切さをしっかりと理解させ、「場に応じた挨拶」「心をこめた挨拶」が自分から率先して行える態度を育成していく必要がある。	3	3	○ 実態調査等が定期的に行われており、児童一人一人の実態が把握できている。あいさつ運動は全校で取り組まれており、その成果が日常生活まで生かされるとよい。「励行」だけに終わらず、挨拶をするとお互いが気持ちよくなるということを実感させてほしい。また、コミュニケーションの大切さをしっかりと理解させ、明るい挨拶が今後も継続できるように願っている。 ○ きまりに関しては、なぜきまりが必要なのかということも児童に考えさせ、理解を伴った具体的な実践力を身に付けさせるように、タイミングを逃さない指導をお願いしたい。 ○ いろいろな場面での手伝いや清掃を通して、人の役に立つことの大切さを感じることが出来る機会を多く設定してほしい。 ○ 日常の児童の会話では荒げた言動をする様子は見られない。今後も「言葉」がいかに大切かを理解させ、相手に与える影響についても考えさせてほしい。また、児童の小さなサインも見逃さないように留意していただきたい。
		9	概ね「3」の評価 ○ 学校全体や各学級で、機会あるごとに継続的・具体的な指導を行っており、大きな問題行動等は発生していない。保護者の評価も94%と極めて良好である。しかしながら、細かな部分では、守れていない面もある。きまりを守ることは、公共のルールや公德心の育成及び信頼関係の構築につながる面もあり、タイミングを逃さない指導を実践していききたい。			
	10	概ね「3」の評価 ○ 家庭での手伝いや清掃に関しては、保護者の評価は高くない状況であり、児童の意識との差がみられる。学校においては、清掃やボランティア活動などを通して、みんなで協力することで生まれる一体感や、誰かの役に立つことで得られる自己存在感を味わわせるようにしている。今後は、家庭での取組も含めて、児童が率先して行動する態度を育成していききたい。				
	■学級の望ましい人間関係と思いやりの心の醸成 ・言葉遣い	11	概ね「3」の評価 ○ 言葉遣いの大きな乱れは感じられないが、児童のアンケート等の結果では、登下校時や休み時間、休日など大人がいない場面では、言葉が乱れることがある。少し感情的になったり、自分の意に沿わなかったりする場合では、乱暴な言葉になってしまうようである。今後は、正しい言葉遣いができた場面では、大いに称賛するなど、発達の段階に応じて常に正しい言葉を意識させる指導を継続的に行っていききたい。			

命を大切に した豊かな 心の育成	・人間関係①(人権尊重)	12	概ね「3」の評価 ○ 保護者の回答では、100%が肯定的な回答であり、児童の学校生活の様子からも、児童一人一人がお互いをかけがえのない存在であるということを認識できている。時には些細なトラブルもみられるが、すぐに仲直りができる状況でもある。さらに、友達の良いところをまねしようとする姿も見られる。			○ 児童があだ名で呼び合っている場面もみられるが、相手がどう感じているのかも考え、思いやりのある児童を育ててほしい。 ○ 困っている友達をすぐに助けるなど、お互いを大切にしている様子や家族同士で仲良く交流する様子が見られる。 ○ 整理整頓に関しては、児童の実態に合わせて、「使ったものは元へ戻す。」「使わないものは捨てる。」など、大まかなことからでもできるように意識改革に取り組み、徐々にステップアップして指導していくことも必要である。 ○ 整理整頓することで、気持ちも前向きになり忘れ物も少なくなるなど、よいことが多くあるので家庭との連携をお願いしたい。
	・人間関係②(相互協力)	13	概ね「3」の評価 ○ 学校においてはピアサポート体制を意識して指導を行っており、ほとんどの児童に協力し合う態度が身についている。保護者も91%が肯定的な回答をしている。本校は、小規模校であり児童がお互いをよく知っているという利点を生かして、やさしい行動が自然に行える雰囲気づくりを今後も継続的に行っていきたい。			
	■整理整頓 ・整理整頓	14	概ね「2」の評価 ○ 児童自身はある程度整理整頓ができていると感じているが、保護者の肯定的な評価は48%と低い。このことから、児童の整理整頓の能力は十分でないことがうかがえる。整理整頓に関しては、個人差も大きく、忘れ物等の増加にもつながり、学校生活に影響を与えていると感じている。今後は、学校と家庭が連携して、自己管理力の向上を図っていく必要がある。			

本年度の重点目標 ○ 健やかな体の育成と安全教育の充実 【 体：健康・安全で共に伸びる喜び 】

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
体の育成・ 安全教育の 充実	■基礎体力の向上 ・外遊びと運動	15	概ね「3」の評価 ○ 昼休みなどは、学年を越えて仲良く元気に外遊びをしている状況にある。また、朝や業間の時間を活用した体力向上の取組(鉄人サーキット・わくわく運動等)を実践したことで、児童の運動意欲も高まり、個々の体力向上につながっている。今後は、ボール等を投げる力の育成にも取り組んでいきたい。	3	3	○ 昼休みや業間時間など運動場で積極的に体を動かしている姿をよく見かける。毎日光のシャワーを浴びて、心身ともに健やかに育ててほしい。加えて、体力づくりの取組は、今後も継続してほしい。 ○ 基本的な生活習慣が健康への第一歩と考えられる。保護者もその模範となるように心がけてもらいたい。特に、朝ご飯に関しては、しっかりと食べる習慣をつけさせてほしい。 ○ 交通安全に関しては、今後も地域住民としても積極的に児童を見守ってほしい。 ○ 安全に関する意識は高く、登下校中の災害発生時の対応等も具体的に指導が行われているので、児童が自ら命を守る行動ができるようになっている。
	■健康な生活習慣の確立 ・望ましい生活習慣(リズム)の形成	16	概ね「3」の評価 ○ 児童の「早寝・早起き・朝ごはん」への意識は高く、保護者の80%が肯定的に評価している。しかしながら、寝る時間等に関しては、生活リズムが乱れることがある。今後は、家庭との連携をさらに強め、規則正しい生活リズムの定着をめざしていきたい。			
	■安全教育の推進 ・安全意識	17	概ね「3」の評価 ○ 保護者の肯定的な評価が100%であり、児童が交通事故に遭うといった状況は発生していない。しかし、登下校や地域での様子では、ふざけながら登下校している事案があり、「自分の命は自分で守る」という考えのもとに全体的な指導を徹底した。災害や不審者と遭遇した場合の対応についても具体的な指導を実施しており、今後も計画的・継続的に危険予知能力や危機回避能力の育成にも力を入れていきたい。			

本年度の重点目標 ○ 地域に開かれ、信頼される学校の実現 【 連：人の役に立ち繋がり合う喜び 】

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
家庭・ 地域社会との 連携	■家庭・地域社会との連携 ・学校と家庭との連絡	18	概ね「3」の評価 ○ ほとんどの児童が、学校からの配布物等を家庭に届けていると回答しているが、保護者の回答では77%とそれほど高くない状況であることから、持って帰ってはいるが保護者まで確実には届いていないという状況もある。学校からの配布物の中には、重要な内容のものもあり、電話やお知らせメールなどを活用し二重三重のチェック体制を活用しながら、直接的に家庭と連絡を取るなどの手立ても実践している。	3	4	○ 家庭と学校との連携は概ねできているようであるが、なかには重要物が届いていないこともあるようで、保護者も児童のかばんの点検など連絡物の確認励行をしていただきたい。 ○ 親子の会話については、何気ない会話を通して、児童に幸福感を感じさせたり、保護者が児童の異変を感じ取ったりできるので、積極的に会話を行ってほしい。保護者には、ちょっとした時間でも児童の声に耳を傾けてもらいたい。 ○ いろいろな交流の場面で元気に挨拶してくれる児童と触れ合うことができ、元気(パワー)をもらえてうれしい。地域では、地域の子供は地域で育てるという気概をもって今後もいろいろと取り組んでいきたい。 ○ 地域行事、クリーン大作戦など保護者も児童も積極的に参加していると思う。保護者も地域活動の中心的な役割を担うようになってきている。また、こうした取組が郷土愛の育成にもつながると思われる。 ○ 保護者のほとんどが学校からの連絡を受け取っていることや学校便り、学級通信やメール等で細かな連絡体制も構築できている。また、地域への情報も定期的に発信されており、学校の様子が分かりやすくなっている。 ○ 学校は誠意をもって児童や保護者に対応していると思います。こうした姿勢を大切にしていきたい。
	・親子の会話	19	概ね「3」の評価 ○ 保護者の86%が、学校での様子をよく話していると回答している。今後は、親子の会話の重要性を理解してもらい、各家庭で短時間でもよいので、1日1回は子供の話に耳を傾ける機会をつくっていただき、児童の細かな変容にも気付くことのできる家庭環境の構築をお願いしたい。また、学校としても児童が話したくなる工夫や話し方の指導を行っていきたい。			
	・地域との交流	20	概ね「4」の評価 ○ ほとんどの児童・保護者が積極的に地域の行事等に参加していると回答している。地域行事等に参加している児童や保護者の様子からも楽しく参加できていることがうかがえる。学校としては、「くしま学」や「キャリア教育」との関連も意識しながら、地域全体を盛り上げることにつながるような教育活動も展開していきたい。			
	・学校からの情報発信	21	概ね「3」の評価 ○ 保護者の97%が学校からの情報発信が十分に行われていると回答している。主な情報発信として、毎月の学校便りや定期的な学級通信等の発行及び積極的なホームページの更新が実施できている。加えて、マチコミメール等も積極的に活用し、迅速な情報発信にも努めている。今後は、情報発信とともに情報収集にも力を入れていきたい。			
・学校の対応	22	概ね「3」の評価 ○ 保護者の86%が肯定的に回答している。これまで、学校が子供や保護者の相談等に対して、迅速かつ適切な対応を行ってきた結果と判断できる。しかしながら、全ての保護者の思いに十分対応できているとは言えない面もある。今後は学校としては、学校の教育目標の具現化を目指し、「全ては子供たちのために」という考えのもとに判断し、地域社会や保護者の要望等に対して、誠意ある対応を心がけていきたい。				